

教材教具名	魚釣りセット	教科(理科・数学 ・フルーツ村)
-------	--------	---------------------

教材教具写真



教材教具の概略(ねらいと使い方) 発達段階や教科上のどの課題で、どのように使ったか等

- 1 ねらい 楽しみながら、釣り上げた魚や動物の名前をおぼえたり、釣ったものの数を数える
- 2 発達段階 高等部としては発達段階はかなり低いグループの学習(グルーピングA2)、および小4、中3、高2の混ざり合った縦割り集団活動
- 3 使い方 釣り竿(直径1cm程度、長さ約1mの丸棒にテグス(約1m)を結び、先端に針の代わりに磁石を付けたもの)を使って、様々な生き物(魚や動物)の絵が描かれたカード(磁石やクリップをとりつけたもの)を釣り上げる。
 - <理科> 自分が釣り上げた動物の鳴き声を、MDで聴いて名前と鳴き声を一致させる
 - <数学> 自分が釣った数を数える
グループの中で誰が一番たくさん釣ったか比較させる
1回目と2回目の釣った数を合計させる(足し算)
 - <フルーツ村> 異学部の子童生徒が混在する3つのグループで、自分たちのグループの釣った数を数える

児童生徒の反応や教材の評価 使ってみての感想・改良発展のアイデア等(次に利用する方のために)

- ・とても楽しそうにゲーム感覚で、授業に取り組んでいた。
- ・とても強力な磁石を針の代わりに使ったので、小さい子や手先が器用でない生徒も、簡単につり上げられた。
- ・透明な磁石に赤のマジックで、色をつけたので視覚的に扱いやすそうだった。
- ・テグスにも色がついている方が、扱いやすいかもしれない。
- ・進んだ段階として、魚類だけを釣る(タコやイカはだめ)とか制限をつけたり、ボーナスポイントがつく魚種をしていくとおもしろいのではなかろうか